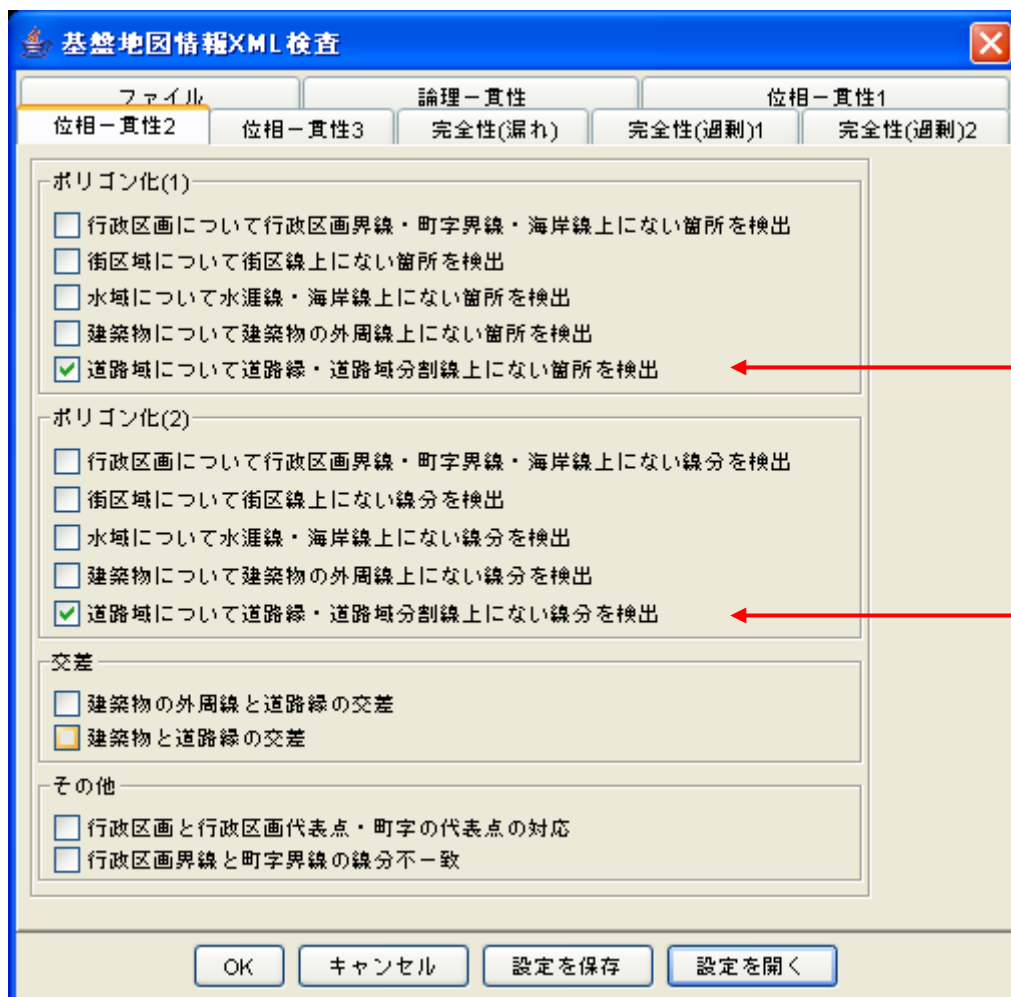


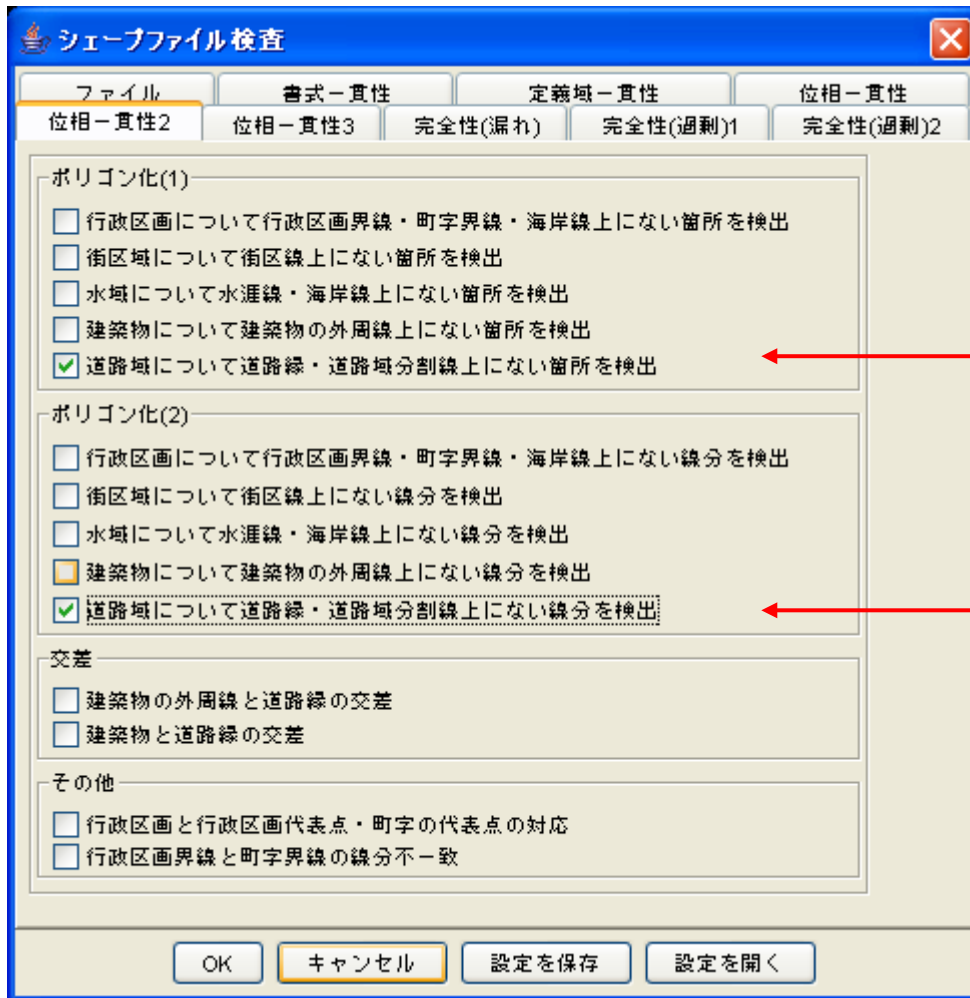
基盤地図情報作成検査ツール バージョン 6.0.68 更新記録

2011/06/06
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. 基盤地図情報XML検査、シェープファイル検査

メニュー[基盤地図情報]-[基盤地図情報 XML 検査]と「シェープファイル検査」の「位相一貫性検査 2」に「道路域について道路縁・道路域分割線上にない箇所を検出」と「道路域について道路縁・道路域分割線上にない線分を検出」を追加しました。

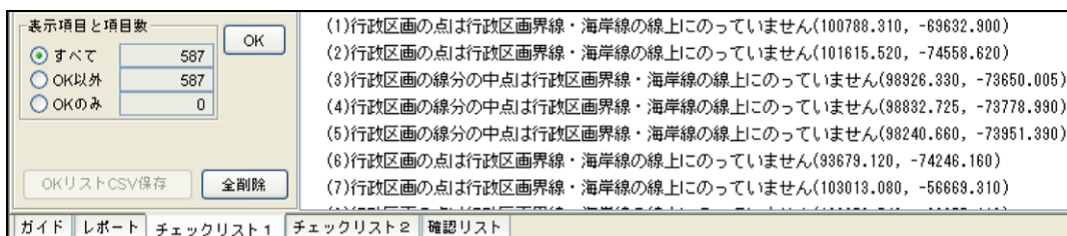




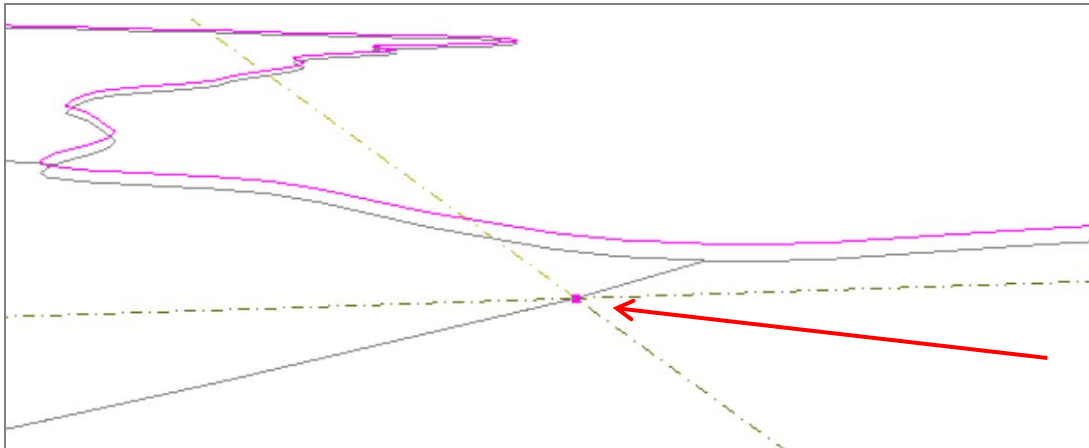
【ポリゴン化(1)】

行政区画の面(ポリゴン)のように行政区画界線と町字界線と海岸線で構成されるポリゴンなどについて、ポリゴンが元の線と一致しているかを検査します。建築物と建築物の外周線の組み合わせについては、重なっていても、種別が異なる場合リストアップします。

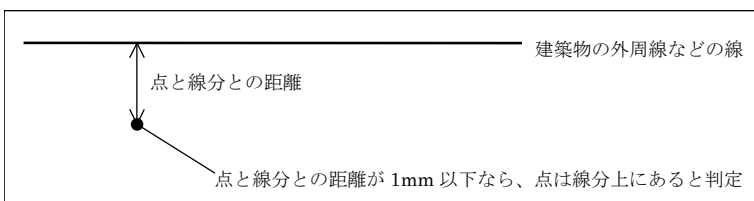
ポリゴンの各点と各線分の中点について、元の線上にのっていない箇所をリストアップします。ひとつのポリゴンについて複数の点がのっていない場合、最初の点のみをリストアップします。ダイアログのチェックボックスが ON で、該当する XML ファイルが揃っている場合、検査します。



メニュー[基盤地図]-[シフト表示]で、行政区画界線・海岸線などを上下にずらして表示すると、重なりが確認しやすくなります。下図の灰色の線は行政区画ポリゴン、マゼンタ色の線は行政区画界線。破線の交点がリストアップされた点です。



点が線分上についていることの判定は、点から線分への距離が **1mm** 以下の場合、のっていると判定します。



「建築物について建築物の外周線上にない箇所を検出」では、建築物の外周線が閉じていないのに、建築物が閉じているケースを検出できますが、建築物の数が多いと時間がかかり、メモリ不足を起す恐れがあります。

【ポリゴン化(2)】

上記「ポリゴン化(1)」はポリゴンの頂点と中点について検査しますが、「ポリゴン化(2)」では、ポリゴンの線分について、始点と終点の座標が一致する線分が参照するポリラインになればエラーとします。ポリゴンの線分ひとつに対して、ポリラインの線分が2本ある場合などエラーとなります。

